

川崎市では、国籍や民族、文化の違いを豊かさとして生かし、全ての人々が互いに認め合い、人権が尊重され、自立した市民として共に暮らしていくことができる「多文化共生社会」の実現に向けてさまざまな取組を進めています。令和元（2019）年12月には、「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」を制定し、全ての市民が不当な差別を受けることなく、個人として尊重され、生き生きと暮らすことができる人権尊重のまちづくりを推進しています。

「人権に関する市民意識調査」は、市民の人権意識などを把握し、施策の検討等に活用するため、5年ごとに実施しています。今回は、令和2（2020）年12月に調査を実施し、調査結果を報告書に取りまとめました。この概要版では、その中から主なものを紹介します。

なお、今回の調査では、幅広い人権課題全体の状況を把握し、各分野の施策の推進に活用するために、人権課題ごとに質問を整理するなど、前回までの調査と質問を大きく変えています。

調査の概要

調査の目的

本調査は、人権に関する市民の意識を把握し、全ての市民が不当な差別を受けることなく、個人として尊重され、生き生きと暮らすことができる人権尊重のまちづくりを推進していくための基礎資料として活用することを目的とする。

調査対象

川崎市在住の満20歳以上の方2,500人

抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

調査期間

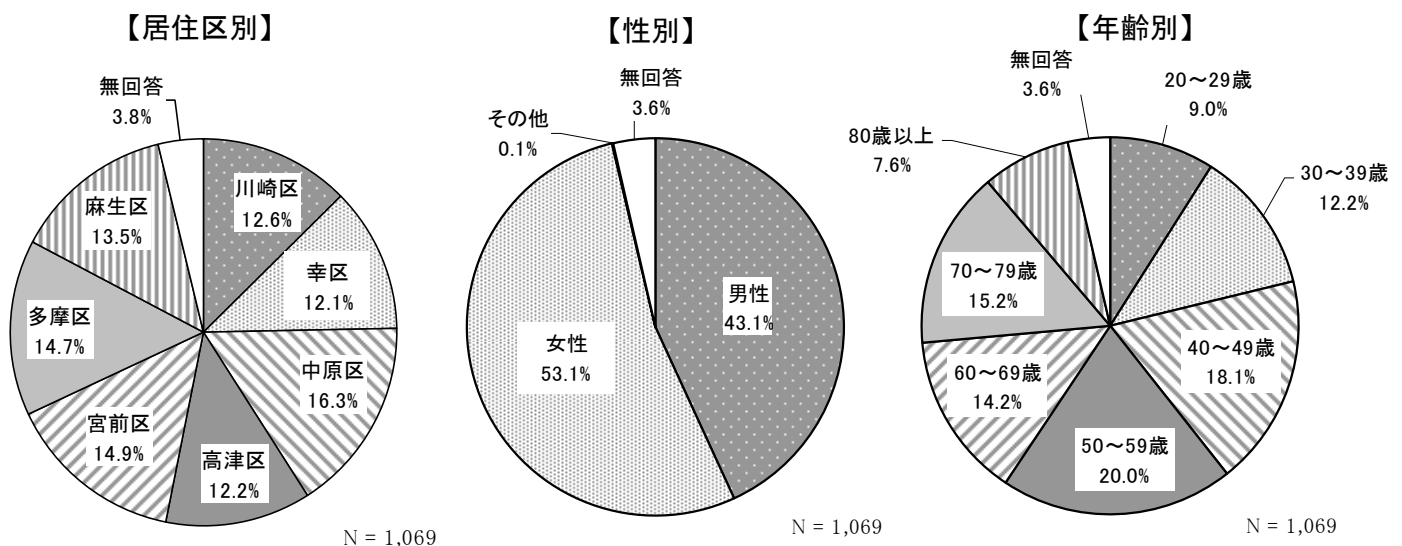
令和2（2020）年12月7日～令和3（2021）年1月7日

回収結果

配布数	有効回答数	有効回答率
2,500通	1,069通	42.8%

回答者の内訳

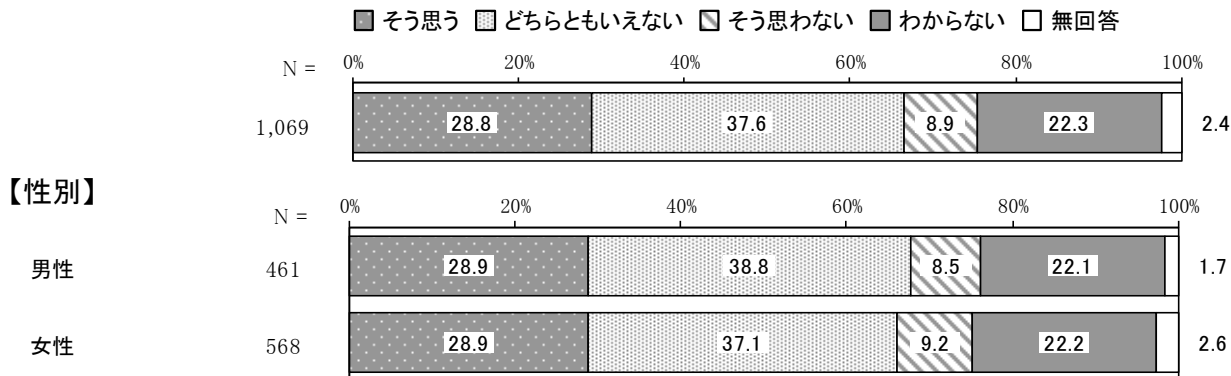
回答者の内訳は、次のとおり。



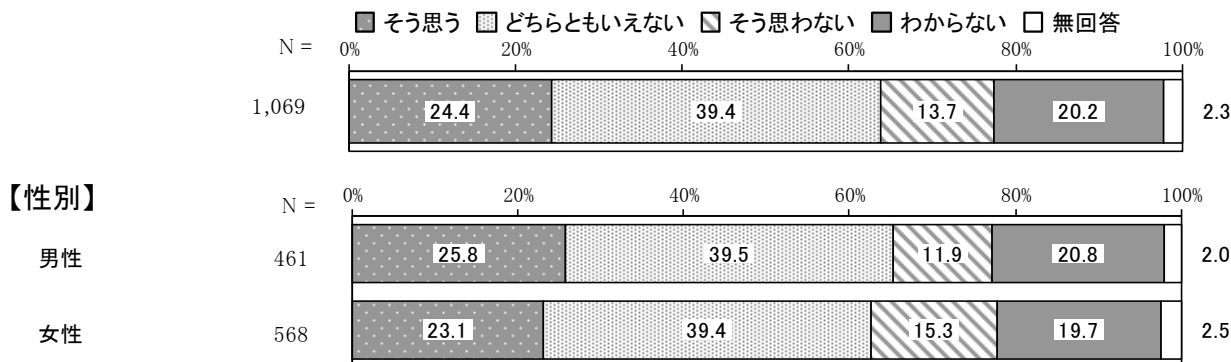
川崎市の状況について

「川崎市では、一人ひとりの人権が尊重されていると感じるか」と「川崎市では、一人ひとりが互いに違いを認め合い、共に暮らしていける社会になっていると思うか」について尋ねた質問では、ともに「どちらともいえない」が最も高く、次いで「そう思う」が高くなっている。また、性別でみると、男女で大きな差は見られない。

○川崎市では、一人ひとりの人権が尊重されていると感じるか。

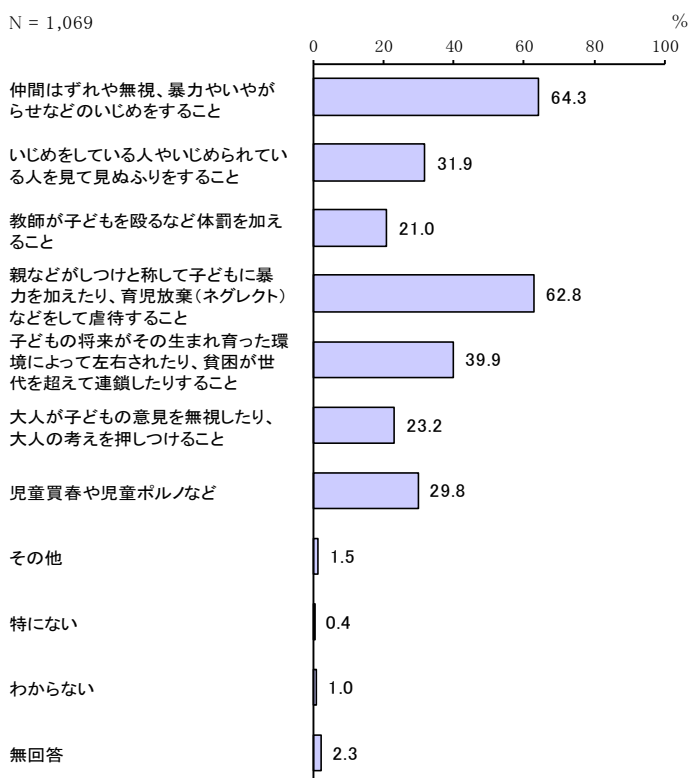


○川崎市では、一人ひとりが互いに違いを認め合い、共に暮らしていける社会になっていると思うか。



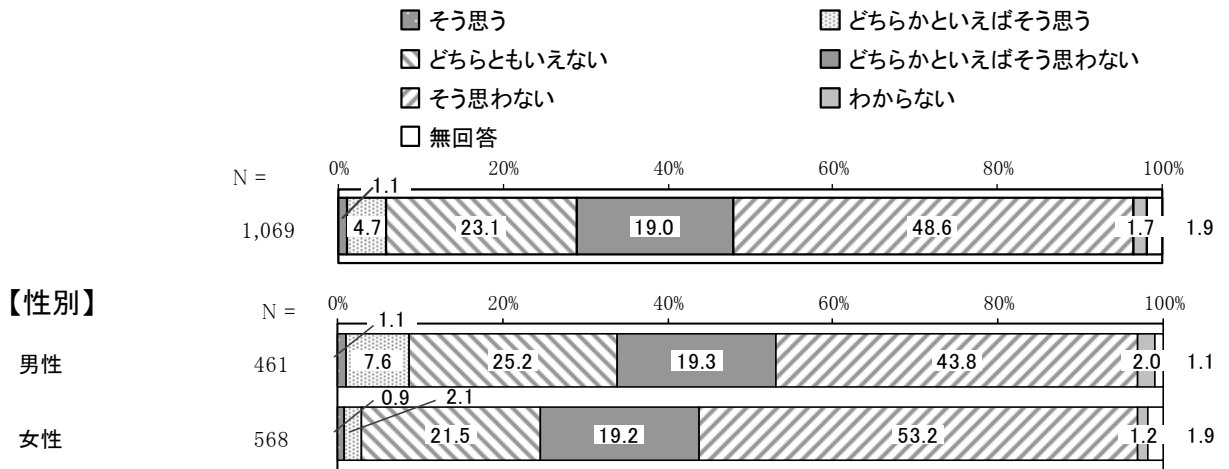
子どもの人権について

子どもに関することで、人権上、特に問題だと思ふことは何かを尋ねた質問では、「仲間はずれや無視、暴力やいやがらせなどのいじめをすること」が64.3%と最も多く、次いで「親などがしつけと称して子どもに暴力を加えたり、育児放棄（ネグレクト）などをして虐待すること」が62.8%、「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されたり、貧困が世代を超えて連鎖したりすること」が39.9%となっている。



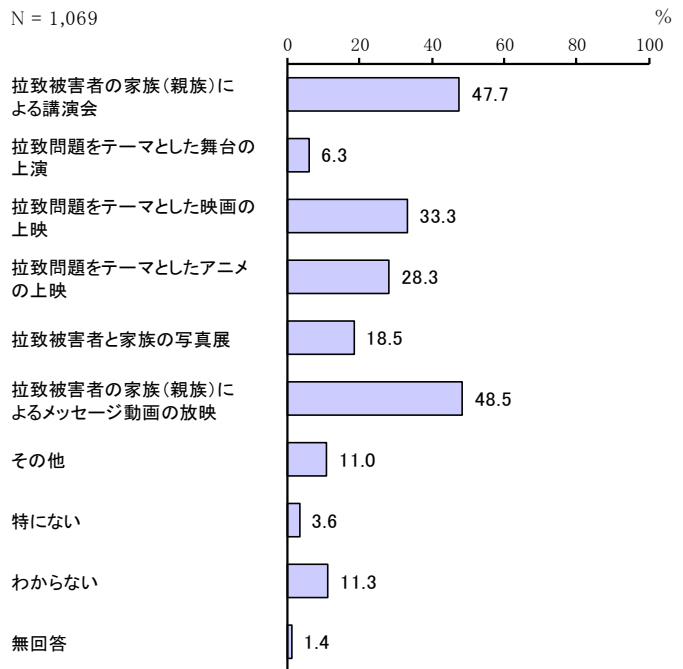
「子どもは判断を間違ふことがあるので、黙って大人の言うことを聞いていけばよい」という考え方について、どう思うかを尋ねた質問では、「そう思わない」が48.6%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が23.1%、「どちらかといえばそう思わない」が19.0%となっている。なお、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は5.8%である。

性別で見ると、女性の方が男性よりも「そう思わない」が9.4ポイント高い。



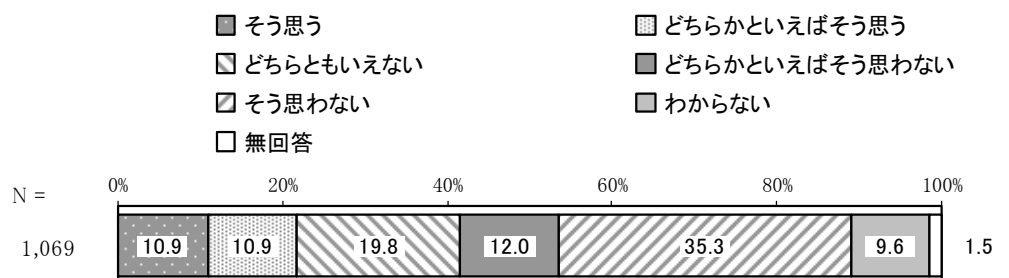
拉致問題について

拉致問題について、理解を深め、関心をもち続けてもらうため、効果があると思う取組は何かを尋ねた質問では、「拉致被害者の家族（親族）によるメッセージ動画の放映」が48.5%と最も多く、次いで「拉致被害者の家族（親族）による講演会」が47.7%、「拉致問題をテーマとした映画の上映」が33.3%となっている。



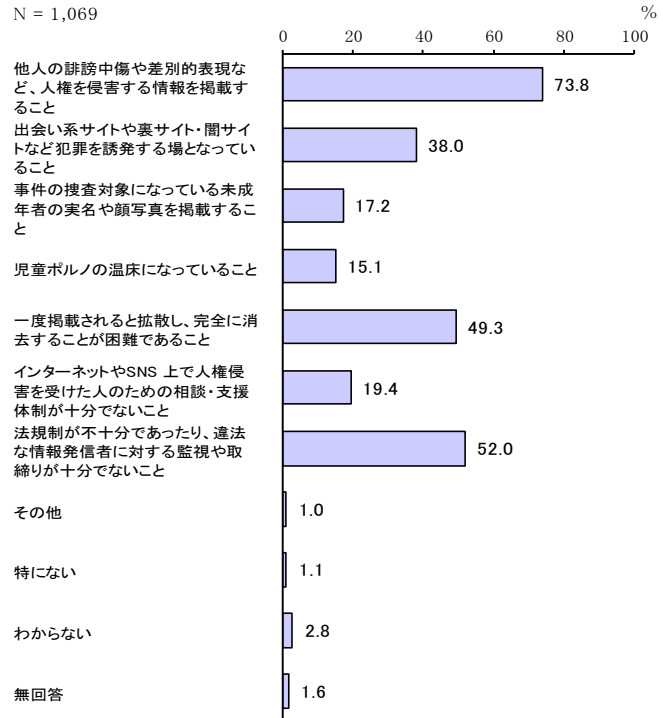
性的マイノリティの人権について

「性別は、『男』又は『女』であってそれ以外はない」という考え方について、どう思うかを尋ねた質問では、「そう思わない」が35.3%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が19.8%、「どちらかといえばそう思わない」が12.0%となっている。なお、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計は47.3%である。



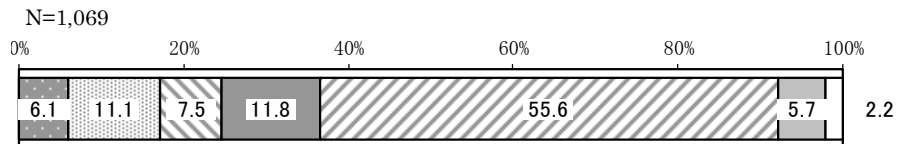
インターネットに関する人権問題について

インターネットに関することで、人権上、特に問題だと思うことは何かを尋ねた質問では、「他人の誹謗中傷や差別的表現など、人権を侵害する情報を掲載すること」が73.8%と最も多く、次いで「法規制が不十分であったり、違法な情報発信者に対する監視や取締りが十分でないこと」が52.0%、「一度掲載されると拡散し、完全に消去することが困難であること」が49.3%となっている。



「匿名性の高いインターネット上で、差別的な書き込みが行われてしまうことは仕方ない」という考え方について、どう思うかを尋ねた質問では、「そう思わない」が55.6%と最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が11.8%、「どちらかといえばそう思う」が11.1%となっている。なお、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計は67.4%である。

- そう思う
- どちらともいえない
- そう思わない
- 無回答
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない



人権尊重のまちづくりに対する市民の理解を深めるための取組について

不当な差別を解消し、人権尊重のまちづくりに対する市民の理解を深めるため、特に効果があると思う取組は何かを尋ねた質問では、「小・中学校教育の一環で説明」が59.0%と最も多く、次いで「インターネットやSNS」が43.1%、「主要駅等でのポスターの掲示」が41.3%となっている。

